

MGU Chapel Letter

—第 59 号 2026 年 3 月 23 日— 発行：大学宗教センター

* 2025 年度 年間聖句 *

「あなたの御言葉は、わたしの道の光
わたしの歩みを照らす灯（ともしび）。」

詩編 119 編 105 節



2026 年度の年間聖句を 味わってみましょう

宮城学院の 2026 年度の年間聖句は、旧約聖書のイザヤ書 32 章 17 節です。

正義が造り出すものは平和であり
正義が生み出すものは
とこしえに安らかな信頼である。

平和を生み出さないものであれば、それは正義とは言えない。安らかな思いと信頼を人間にもたらずものは、何なのか。世界が紛争で揺れている今、深く考えるべき言葉です。

新年度の礼拝は 4 月 17 日から

4 月から昼の大学礼拝が始まります。前期は 4 月 17 日から 7 月 24 日まで計 39 回を予定しています。4 月は 17 日（金）・20 日（月）・22 日（水）・24 日（金）・27 日（月）の 5 回です。第 1 回の 17 日は、一般教育部の松本周先生が話されます。

【連絡先】 宮城学院キリスト教センター

TEL : 022-279-9558

Email : christ-c@mgu.ac.jp

✦ イースターと希望 ✦



新年度の大学礼拝が始まるのは通常、4月半ば過ぎです。春休みが終わり、入学式などの一連の行事が済んでからなのですが、これは本当は非常に残念なことです。というのも、クリスマスと並ぶキリスト教の重要な祝日が、毎年礼拝が始まる前に過ぎてしまうからです。何の祝日かご存知でしょうか。イースターです。

イースターのことを、「ウサギと卵が主役の春祭り」と思っている人もいそうですが、違います。これは、十字架にかけられたイエス・キリストが3日目に復活したことを祝う「復活祭」です。今年4月5日（日）にあたります。

「復活」とは、仮死状態から息を吹き返した「蘇生」のことではありません。神の御子イエスが死に打ち勝ち、神であり救い主である姿をあらわしたこと、十字架での死をもって人類を罪から救い出したことを示したことが「復活」です。このことは、神が、「人間が私と歩めなくても、私はとことん人間と共に歩もう。人間が私のもとに来られないのなら、私が人間のもとに行こう」とこの世界に来られ、死に至るまで人間と歩んで下さったことを意味します。この底知れない愛のために、人間は罪を赦され、永遠の命を受けられるようになったと聖書は教えるのですね。

その意味で、イースターは希望の祝日とすることができます。「確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない」（箴言 23 章 18 節）、「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る」（コリントの信徒への手紙 1 13 章 13 節）とあるように、聖書は希望の重要性をくり返し語っています。そのように「希望がある」と断言できるのは、イースターが示している神の愛が、私たちと共にあるからです。

ウクライナやパレスチナにおける悲惨な紛争が終わらないうちに、新たにイランをめぐる戦争が始まりました。苦しい過去から学ぼうとしない人間社会の姿に、絶望的な気分になってしまうこともあるかも知れません。しかし、イースターは、「神が人間のことをあきらめない以上、人間もあきらめてはいけない。あきらめる必要はない」と語りかけてくれます。聖書が与えてくれるこの希望の約束を胸に、新年度も歩んで行きたいです。平和のために自分にも何ができるのか、真剣に考えましょう。（栗）